

# ウクライナ避難者支援

## のための情報共有会議

### — 第9回議事メモ

日時：2023年2月28日（火）18：30～20：30

開催方法：オンラインzoom

参加者：60名

\* 団体、個人名については敬称略にて掲載しております。



# 挨拶、会議の趣旨、開催経緯

あいち・なごやウクライナ支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード（RSY） 代表理事 栗田暢之

すでに各地域で様々な支援が実施されています。  
それぞれが大切な取り組みです。

そのうえで、

- 官民が持てる情報を共有しましょう。
- 互いの過不足を補い合いましょう。
- 共に連携・協力し合い、より有益な支援につなげていきましょう。

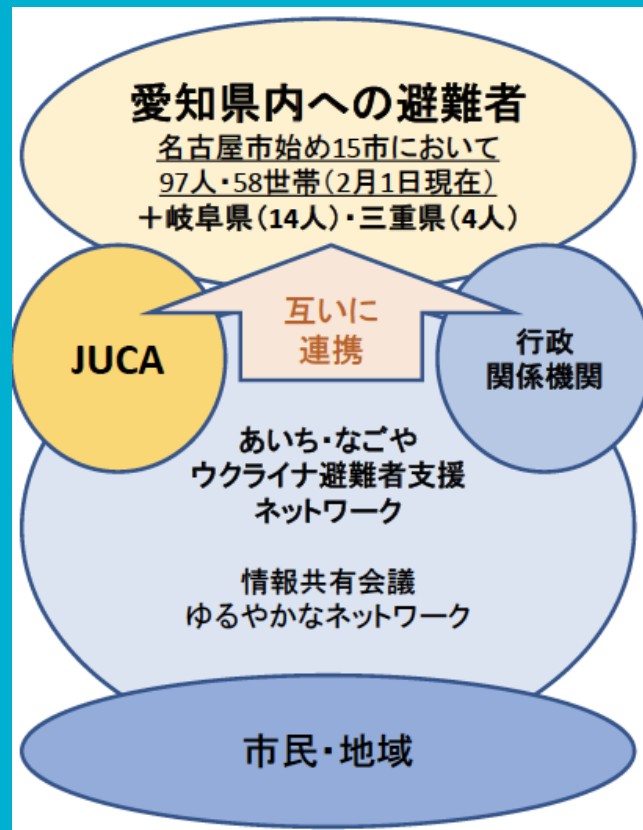
「暮らし」とは、

衣食住・モノ・お金・仕事・教育・医療保健福祉・心のケア・コミュニティ・言語・・・  
緊急的、そして中長期的な視点が必要

「みんなの願い」は、

避難者「一人ひとり」のいのち・暮らしが守られること

行政・JUCA・支援団体等による支援  
地域を基盤とする支援



# 挨拶、会議の趣旨、開催経緯

あいち・なごやウクライナ支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード 代表理事 栗田暢之

## <最近のイベントや支援>

- ・戦争開始から1年。ウクライナの方にとって複雑な感情で過ごした1年だと思う。2/24当日のデモや街頭募金などの活動を通して改めて心に刻んだ。
- ・私たちネットワークも、微力ながら、官民連携で地域を主体とした支援、一人ひとりのニーズに応じた支援をしていこうとしている。
- ・新たに来日する避難民の方には、一から支援をしていかないといけない状況。長くいる方には一人一人に異なるニーズを聞いてそれに応じた支援をしていく必要がある。
- ・中日新聞（2/24）からの記事紹介。名古屋市も参加する名古屋ウクライナ避難民実行委員会が募った寄付金は、4月が1466万円だったが、その後は200万円以下に留まり、どんどんじり貧になってきている。災害救援の経験から、風化や寄付が続かないのは当然のこととは理解しているが、そんなに早く忘れてしまっているのかと根本的な課題に感じている。
- ・今日は本国からのご発表もあり、学びを深めたい。

## <これまでの情報共有会議で確認したこと>

- 地域地域で支援ネットワークを広げていきたい。
- 提供型支援より、必要なときに地域や就職先などその場その場で相談に乗れること。緩やかにつながり、ニーズに応じた支援ということを共通の着地点にしたい。それぞれの支援の強化のためこのネットワークを活用していただきたい。
- 行政、専門職、民間、個人・・・できること・できないことが違う。できないことはカバーし合い、横の連携を広げることによって、避難者一人のために力を合わせることが大事。
- 物の支援だけではなく、就業、教育、コミュニティ。言語の問題など中長期的な支援が必要。

# JUCA (NPO法人日本ウクライナ文化協会)

理事長 川口リュドミラさん、副理事長 榊原ナターリアさん

## <今月行ったことの報告>

- ・1年間ずっとウクライナに気持ちを寄せてくれていることに感謝。平和な日本で過ごすことができているが、避難者はストレスが続いている。何かしなければならぬと考え、ウクライナ人だけの交流会を行った。参加したい日本人の声も聞いているが、ウクライナ人だけで交流する時間が必要。
- ・1年を思い出し、精神状態の良くない避難者も多かった。しかし、2/24当日には栄でデモを行い、大雨で寒い中110人を超える人に参加していただいた。避難者も声を上げて頑張った。避難者が作った手芸品等をバザーとして販売する予定だったが、雨のため十分できなかった。
- ・先週の1週間はレスキューストックヤード、名古屋市にデモや募金活動など多くのご協力を頂いた。
- ・昨年は、フェスタ、バザー、団体や個人からの支援がたくさんあったので、いただいた寄付はウクライナに送金した。占領され大変な状況のザポロージェ市の2つの学校、ドネツク州やハルキウ州など食べ物がなく困っている状況のところへ集めたお金を送金した。また、ボルシチ祭りで集まったお金は占領されていたハルキウ市の障がいのある子どもたちへ送金した。今戦闘が激しいと報道されているバフムト市へも毛布を170キロ送った。とても重たかったが、レスキューストックヤードも手伝ってくれて感謝している。ヨーロッパで中古の救急車（日本のように白では危ないため、カーキ色にされている）を2台購入し、寄付した。ミサイル攻撃で車はすぐに壊されてしまうため多くの車が必要とされている。戦争が早く終わるように願っている。
- ・これから春になりバザーやイベントの計画がある。そこでお金を集めて引き続き必要なところへ送りたい。支援物資は必要だが送料がとても高いので、支援金を送金する予定。
- ・ウクライナのニュースが少なくなってきたが、今月は報道が増えた。ウクライナにボランティアとして行きたいと言ってくれる人もいた。ウクライナのことを考えてくれている人たちがいることに感謝している。
- ・避難者は生活はできるようになってきてはいる人は多いが、1年を迎える中で民間不動産会社から無償提供を受けている世帯は契約が切れ、市営住宅へ転居しなければならないという問題もある、家具家電が一式が必要。引き続きこのような支援もお願いしたい。

# あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／NPO法人レスキューストックヤード（RSY） 事務局 加藤絢子

## <最近の取組>

\* 支援調整→ネットワークでつながりのある団体からの食品・物資支援（米・パン・保存食品・飲料・菓子・タオル・靴・生活雑貨・調理用品・衣服・防寒具等）※パン、タオルなどの食品や消耗品はニーズが多くすぐなくなる。

\* 避難者の個別対応→生活支援物資の調達（キッチン湯沸かし器、大きな枕（これまでニーズをお聞きできていなかった方からお伺いすることができた）、掛け布団）とお届けとともに個別訪問、個別相談

\* 避難者の確認ができていない自治体との情報共有を密にして、当団体でお聞きした情報を共有し、今後の個別支援につなげたい。

## ●現状(1/31→2/28現在)

\* 支援登録件数 企業・団体 54件→55件  
個人 143件→148件

\* マッチング件数 企業・団体 52件→55件  
個人 52件→56件

物資支援5(団2+個3) / 個人支援：ボクシング練習1(個) / イベント招待1(企)

\* イベント：ラグビープロリーグ試合観戦の招待

## <個別相談>

\* 就労：1人ひとりの希望条件に合わせて仕事を探すことの難しさ(子どもがいる場合、オンラインで本国の授業をしている夜間に働きたい、逆に授業中は一緒にいたいと希望がそれぞれ異なる)

\* 民間会社の無償住宅提供終了に伴い、市営住宅への入居希望（家財調達が厳しい状況）

\* 新規避難者や引っ越し予定者への家具・家電等をはじめ生活用品の調達。入居済みの方の不足している物の調達。それに伴う運搬の依頼。

\* 子どもの学習支援（日本の学校生活での悩み、授業についていけるか、宿題自体の内容を理解するのが難しいという声。できるだけ地域で支援している団体と繋がりたいと調整しているものの、一つ一つのニーズに対応しきれていないのが現状）

## <課題>

\* 新規支援登録者数の停滞→チラシ作成・各種機関紙等に掲載他（チラシは各所で配布）

\* 在留カードや資格外活動許可申請についての周知とそれに伴う対応→動画作成・SNSで配信

\* 納税に関する周知（確定申告等）→避難民へのアンケートを実施し、そのフォローアップ

\* 専門家による心的ケア、また長期化に伴った日本語習得や経済的な不安（経済不安もあり今になって就労を考え、日本語学習を始めないといけないという方もいる）

# 愛知県

社会活動推進課 多文化共生推進室 田路さん

## <最近の取組>

- ・2月21日時点で60世帯、101人の避難者がいることを把握している。
- ・新しく愛知県に来た方にもこれまでと同様の支援（生活一時金の支給、タブレット端末の貸与、プリペイドSIMカードの配布）をしていく。企業からの寄付物品の配送も継続している。近況としてEDWIN様からご寄付頂いた服を本日発送したので近日中に届く予定。
- ・愛知県宛に寄付金を多くの方から頂いている。今年度は、1人5枚のプリペイドSIMカードを渡しているが、追加で配布する予定。18歳以下、60歳以上の方に5枚、19～59歳の人に4枚追加で配る。3月中に市町村を通じて届くように手配している。
- ・来年度も、生活一時金の支給とタブレット端末の貸与、プリペイドSIMカードの配布、寄付物品の配布を継続する。今年度実施したオンラインの日本語教室も継続する。開始時期は未定。

# 名古屋市

国際交流課 西川修平さん

・名古屋市は、寄付金でJUCAやRSYの活動を支援するという枠組みで動いている。ふるさと納税で12月の寄付は少し増えたが、また減ってきている。社協はじめ募金箱を置いて頂いているところに感謝している。ニュースでご覧になった方もいらっしゃると思うが、区役所に設置していた募金箱が、ワイヤーロックをかけていたものの盗難に遭うということがあり、今後管理を徹底していきたい。

・1年が経ち、避難者の人数は28人からスタートして、直近では49名。県内の半分くらいが名古屋市在住という数で推移している。1か月に1-2人増えるというペース。今後減ることが良いことではあるが、このペースが続くことも考えられるのでしっかり支援していきたい。

・個人的に嬉しかったことが2つあった。2月24日が終わった後に、JUCAから1年間の感謝のメールをいただいたこと。また、トルコの地震に対して当課で募金活動を行うことになったが、その際にJUCAやRSYに手伝ってもらい、今回の活動でつながった輪が広がっていると感じて大変嬉しく思った。

# 今後の支援策の概要

日本財団 経営企画広報部 ソーシャルイノベーション推進チーム ウクライナ避難民支援室 リーダー 神谷圭市さん

・過去の日本財団の取り組みについて  
2022年最初、避難民への支援を2つ発表した。

①渡航費・生活費等の直接給付

②避難民を支援する団体への支援

安心して日本で過ごしていただく、支援する人も安心して支援できるようにと想定した。支援総数は右記の通り。

②については、本日×切だったが、2023年度も金額やコンセプトは少し変わるものの継続する。

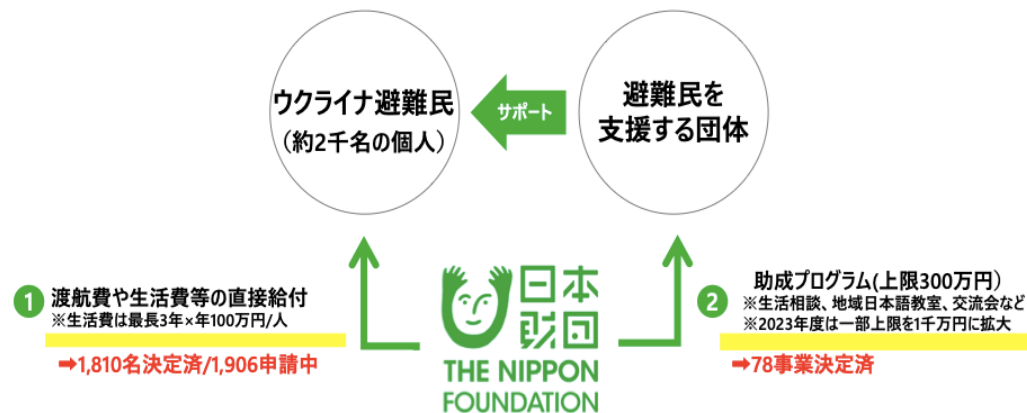
・1年が経過し、現在の課題は大きく分けると2つあると考えている（右記参照）

・これらを踏まえつつ、定期的にアンケートを取り分析し、今後に活かすようにしている。

[tps://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2022/20221215-83117.html](https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2022/20221215-83117.html)

（アンケート結果は上記URLを参照）

## 日本財団の取り組み（2022年から）



### 【課題】

- ①短期）生活費支援終了後の避難民の自立、活躍をどう目指すか？
- ②中長期）今回の支援の経験を、日本の外国人支援制度にどう活かすか？



# 今後の支援策の概要

日本財団 経営企画広報部 ソーシャルイノベーション推進チーム ウクライナ避難民支援室 リーダー 神谷圭市さん

- ・アンケート回答によると、別の国に移動したい、早く帰国したいという意志を持っている方は3%程度。多くは日本の環境、ウクライナの状況にもよるが、ある程度長く滞在したいという希望だった。
- ・就労について。22年12月時点で4割程度が就労していると回答。回答者数は18歳以上の850名程度なので、ある程度信憑性は高い。
- ・具体的に見ると、8割がパート勤務。多くはフルタイムで自立できる状況にはなっていない。ヒアリングも行ったが、CSR的に地域の企業が好意で週2日程度の仕事を与えているという状況も多い。もっと避難民の能力やスキルを生かした就労ができるのではないかな。
- ・日本語について。定期的にアンケートをとっているものの、多くの方が日本語で話ができない、聞き取れない、もしくは少ししかできないという状態。22年7月の調査と12月の調査を比較し、向上は見られるものの、学習時間は週2-3時間ということが多いようで「少しできる」から伸びていくのが難しい。ここに取り組んでいきたい。
- ・アンケート対象は18歳以上全ての人。8割の回答率。12月～1月の時点で850人。地域の偏りはない。

## <質疑応答>

Q生活支援金の支給について、就労している人に対して何か変更はあるか？

→就労していてもいなくても次年度も継続していく。それに加え、就労支援プログラムを企画検討している。具体的になっていないところなので、ぜひ提案を頂きたい。例えば、名古屋市と連携してこのようなことができるといった提案があれば、それに合わせてプログラムを検討していくことも可能。ただ、個人的には、自治体は就労支援はハローワークが管轄ということがあり、および腰になっているのではないかと考えている。

Q:一時帰国をする人には、支援金は渡されないという噂は本当か。

A:日本に戻ってきたら日本の口座に振り込まれるが、日本に戻らなければ支払われない。ウクライナへの帰国理由がやむを得ない方もあるとは思うので、帰国理由を元に支援を止めるわけにもいかない。一律の対応をしている。

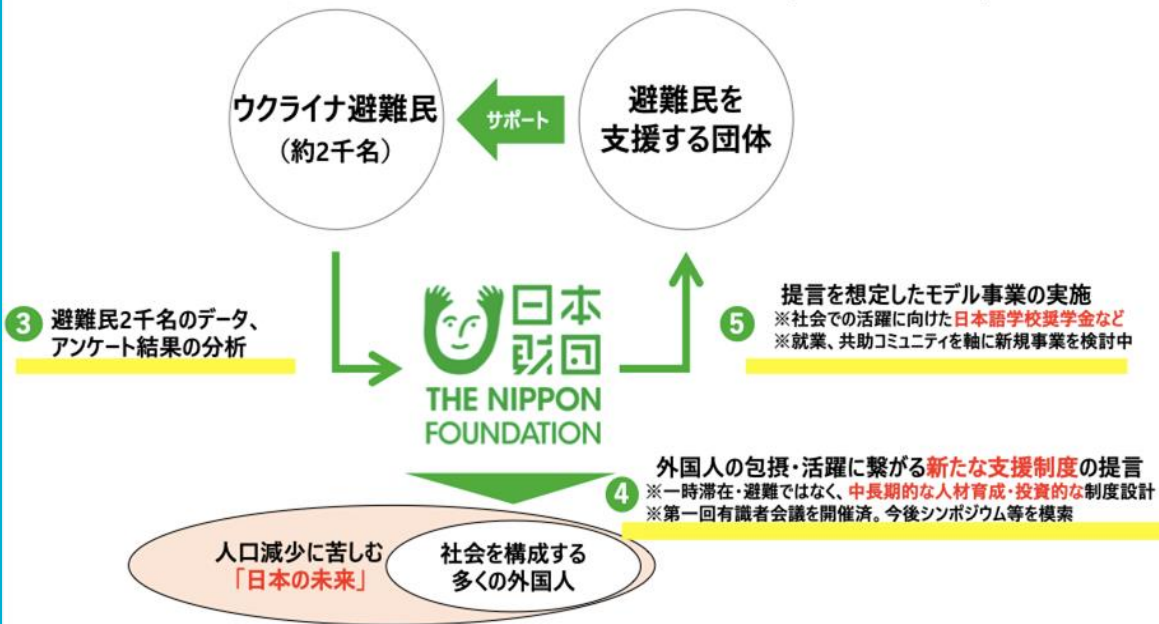
# 今後の支援策の概要

日本財団 経営企画広報部 ソーシャルイノベーション推進チーム ウクライナ避難民支援室 リーダー 神谷圭市さん

<2023年度の新たな取り組みについて>

- ・アンケート結果の分析、他国の取り組みも見据えて、どのようなことが避難民に有効か検討中。
- ・今回の支援は社会的な着目が非常に高く、今後どのように活かすか。外国人の包摂・活躍につながる新たな支援制度の提言をしていきたい。
- ・政府を中心に、一時滞在・避難への支援という考え方が多く見受けられるが、どんな立場であれ日本に来る外国人の方には、中長期的な人材育成、投資的な制度設計をしていくべきと考えている。これは、欧米などで重視している観点。母国に帰りたくてもなかなか戻れない、日本で暮らしていきたいという人たちも多くいることを念頭においた支援が必要。先月、第1回有識者会議を開催したが、今後もシンポジウム等でこの考え方を広げていきたい。
- ・日本財団はシンクタンクではないため、こうした提言に合わせた支援策をできることが特徴。避難民の方には、昨日からメールで案内しているが、提言を想定したモデル事業として、「日本語学校奨学金」を行う。また、日本人と避難民の共助コミュニティを軸においたモデル事業も模索中。短期的な支援から、中長期的に避難民と日本人のコミュニティが包摂しあってウィンウィンの関係になっていくことを重視していく。

## 日本財団の新たな取り組み（2023年）



# 今後の支援策の概要

日本財団 経営企画広報部 ソーシャルイノベーション推進チーム ウクライナ避難民支援室 リーダー 神谷圭市さん

## 「ウクライナ避難民向け日本語学校奨学金」

- ・ウクライナ避難民だけではなく、このような支援制度が日本に必要ではないかという提言に結びつけることをコンセプトとして企画した事業。
- ・背景として、例えばドイツではその国の母語を学ぶことは外国人の権利になっている。お金がない外国人も無償で毎日学ぶことができる。日本では全くこのような状況がなく、多くの外国人が日本語習得に苦労している。
- ・避難民が個々の能力・経験を活かし、経済的に自立できるフルタイムの仕事に就けるよう、年570時間以上のカリキュラムに基づいた日本語、日本文化・仕事文化の教育を受ける機会を提供することを目的としている。
- ・アンケート結果のうち、公表していない項目として、学歴、就業状況がある。避難民の4割程度が大学院を卒業、年齢性別に関わらず、本国では仕事をバリバリしていた方々。本来は、非常に能力が高い方々が日本語ができないため、希望する仕事に就けない状況。英語ができる方も多いので、日本語を習得していただき、日本で戦力として仕事ができるのではと考え設計した。

## ・支援内容

- 1.学費を最長2年間支援（※上限100万円／1年間）
- 2.通学費、教材費の一部補助として交通系ICカード（2万円）及び図書カード（3万円）を給付。
  - ・支援対象者：将来的なフルタイム就業を目指す16歳～59歳の避難民100名（意欲を見ることしか条件としていない。日本財団の生活支援を受けている避難者100人としているが、申込みが多数であれば今後検討する）
  - ・日本財団の条件をクリアした85校の対象校の中から避難民が選び、教育機関から入学の仮許可が出ている段階で教育機関から申請していただく形式。申請期間は2023年3月～8月31日。4月入学に間に合うようにと考えているが、4月以降入学のケースも考え、8月31日までとしている。上限100名に達したら募集は終了。

# ウクライナ キーウより

Техіяна Макаренко(テチアナ マカレンコ)さん / 通訳: カルジリオ リュボフさん

- ・ウクライナに興味を持ち、支援をしてくださり、感謝しています。ちょうど今朝、日本政府がロシアに新しい制裁を発表したことをきいた。日本全体の支援に感謝したい。
- ・テチアナ・マカレンコといいます。夫と9歳の息子とキーウ郊外の村に住んでいて、そこはちょうど侵攻を受けていない場所だった。
- ・2月24日に全面的な戦争が始まったが、ウクライナにとっての戦争の始まりは2014年にロシアがドンバス、ドネツク、ルハンスクに侵攻し、クリミアの占領をしたときだった。
- ・私たちは全面的な戦争が始まる前に予感がしていた。国境の近くにロシアの戦車が近づいていたし、国際的なニュースで流れていたのです。当時、息子を連れて夫と「ウクライナは侵略があったとしても認めない」という意思表示のデモや集会に参加していた。
- ・2月24日5時5分に大きな音で目が覚めたが、ウクライナの防空システムの音とだいぶ後になってわかった。一日中、頭の上に飛行機が飛んだり、爆発の音がしていた。ウクライナ軍がなんとかロシア軍に耐えようとしているニュースが一日中流れていて、自分の心境としては全体的に無力さと恐怖で覆われていた。
- ・こんな全面的な戦争がはじまると思っていなかったもので、戦争が始まったらこうしようというプランを持っていなかった。自分の祖母がキーウから120キロ離れている村に住んでいたの、息子と両親、姉と姉の子どもをそこに避難させ、自分たち夫婦はキーウに戻った。
- ・みなさんもテレビなどで見たと思うが、多くの人たちが避難するため電車が満員になったり、車が渋滞していた。当時まさにそういう状況だったが、自分の家がキーウの攻撃を受けていた反対側だったため、幸運にも、避難することができ、かつ、無事にキーウに戻ることができた。生活の状況としてはスーパーに食品がなく、買いだめなどで棚が空っぽ、ガソリンがなく、車を捨てて歩いて避難していた人もいた。
- ・夫が軍に入ろうとして、申込みの場所に行ったが行列が長くてその時は入れず、地域防衛隊に入った。地域防衛隊は軍の手伝い、軍地を作ったり車や怪しい人達をチェックしたりする活動を行う。私自身は、火炎瓶を作ったり、とにかく皆がキーウを防衛する活動を準備していた。

# ウクライナ キーウより

Техіяна Макаренко(テチアナ マカレンコ) さん／通訳：カルジリオ リュボフさん

- ・自分の職業はマーケティングだったので情報の重要性を理解しており、ボランティアとして情報発信をしていた。ウクライナ国内の避難者のための情報収集や発信、ロシアの戦争を支援するサイトに苦情を送ったりブロックする活動をしていた。
- ・全面的な戦争が始まった時に、多くのウクライナ人は、一般的なロシア人は戦争のことを何も知らないだろう、戦争に反対するだろうと思っていたので自分のロシアにいる知り合いに電話したり、ウクライナで起きていることを伝えようとした。実際、自分の父の姉妹がロシアに住んでいてウクライナで起きていることを伝えようとしたが、残念ながら二度と電話しないでと言われた。多くのウクライナ人が同じような活動をしたが、残念ながら同じような状況だった。
- ・3月に入りどんどん危険が迫ってきて、銃撃や戦闘が近くで行われるようになってきた。夫の地域防衛隊の活動は夜にパトロールがあるため、夜自分一人になるということ、自分の仕事がリモートでできることなどから、3月9日に息子や姉家族も連れて、西部のザカルパッチャ州の姑のところに避難することに決めた。

Q：現在の外の気温、今の生活は？

- ・気温はマイナス1℃～4℃程度。食料についての状況はだいぶ変わっていて、スーパーに食料があり、ガソリンスタンドにもガソリンがある。閉店していない店以外は営業している（映画館、レストラン、カフェなども）空襲警報がないときに限ってはあるが。銀行カードも作ることができる。特に、全面的な戦争が始まったときに現金がなかったが、どこの店でもカードで払うことができ助かった。
- ・世界で様々な困難なことがあるが、ウクライナのことを心に入れて続けてくれていることに感謝しています。

# ウクライナの障害のある人の報告

きょうされん常任理事 / 社会福祉法人さくらんぼの会 大野 健志さん

・1年経ったが、ウクライナに270万人とも言われる障害のある人たちは、今も不安と恐怖の中にいる。

・1年前の3月10日にAFP通信が「高齢者と障害者、数百万人が避難できず「高い危険」にさらされている」と初めて報じた。

・当団体は、ウクライナ障害者国民会議のラリーサ・バイサさんと1年前の3月に繋がった。ヨーロッパの障がい者団体に連絡をとったことがきっかけ。

・ライサさんとのやり取りの紹介

①2022年3月18日：ウクライナ障害者国民会議は、118の団体の連合体です。マリウポリには私たちの組織の代表がいるが悲しいことに、何人かの人たちとは連絡が取れず、生きていかどうかもわかりません。現地の人たちは完全に封鎖されている状態です。話を聞くことができた人たちは精神的にも肉体的にもかなり深刻な状態です。

②2022年3月20日：ロシア軍は老人ホームの建物に近距離から発砲しました。老人ホームで老後を過ごされていた老人56人が即死したのです。生き残った15人はロシア軍に占領されている地域の老人施設に連れて行かれました。惨状の現場に行くことはいまだ不可能です。

・今年の2月21日に届いた最新の連絡。

戦争は、今日も多くの人の生活を破壊している。障害のある人や高齢の人は家を失い、避難生活を余儀なくされています。彼らは医療や社会的支援、経済的支援を必要とし、時にはただ話を聞いてもらうだけでもいいのです。中には、大切な人を亡くし、住んでいた家ももう存在しなくなると、これからどうやって生きて行けばいいのか、どこに戻ってあげればいいのか、わからない人たちもいます。

・障がいのある人に関する報道の紹介。

キーウ在住のマクシム・ミッシェンコさん。7年前に脊椎を損傷し、首から下が動かせないという方でアパートの4階で車椅子生活を送っている。

『空襲警報がなると自宅の「廊下」に避難します。なぜなら、地下壕への避難経路は細長い階段が続き、シェルターに向かう道には段差も多いからです。家の廊下で両親と「私達は安全な場所にいる」と言い聞かせ合い、空襲警報がやむのをじっと待っています・・・最終的に選んだ避難場所が自宅の廊下でした』

・兄はドイツ、祖母はキーウ郊外にいる。そちらにも避難をしたが、バリアフリーがない、馴染めないなどの理由でキーウに戻った。自宅の廊下が最終的に選んだ避難場所だったという状況のようだ。



# ウクライナの障害のある人の報告

きょうされん常任理事 / 社会福祉法人さくらんぼの会 大野 健志さん

・ロシアもウクライナも障害者権利条約を批准している。

第11条『危険な状況及び人道上の緊急事態に基づく自国の義務に従い、危険な状況（武力紛争、人道上の緊急事態及び自然災害の発生を含む。）において障害者の保護及び安全を確保するための全ての必要な措置をとる。』

・ウクライナの状態を見ると、例え条約を批准していても、戦争になると障がい者や高齢者は置き去りにされてしまう。ロシア軍の兵士も戦争による負傷で2000人以上が障害者に認定されたという報道もあった。

・当団体専務理事、藤井克徳さんの詩『愚の骨頂』を紹介（右参照）

・当団体では寄付を集めて1200万円の寄付をウクライナ障がい者国民会議、AARジャパンに寄付を行った。障害のある人もない人も笑顔で安心して暮らせることを望む。戦争ではなく平和が大事。平和のために軍備拡大という方向に世論も動きつつあるが、歴史に学びたい。戦争が障害がある人の人権をないがしろにし、「穀潰し」「非国民」と呼ばれ足手まといにされた歴史を知っている。

・どんな小さな動きでも戦争を起こさせないために注意を払い、戦争させないための話し合いを諦めずに呼びかけていきたい。

戦争は 人間を人間でなくしてしまう  
戦争は 殺せば殺すほどほめられる  
戦争は 癒えることのない傷を残す  
戦争は 生涯にわたり悪夢を背負わず

戦争は 独裁者をより独裁者にする  
戦争は 100年も 150年も恨みを残す  
戦争は 国の予算をいびつにする  
戦争は 世界の食料やエネルギーの需給バランスを壊す

戦争は 日常から希望と自由を盗み取る  
戦争は 文化や芸術を蹴散らす  
戦争は 彩りやにぎわいに泥水を浴びせる  
戦争は スケジュール表を役に立たなくする

戦争は 屈強な男の値打ちを異常に吊り上げる  
戦争は 家族や恋人を切り裂く  
戦争は 子どもの心をどす黒くする  
戦争は 生きづらい人にあきらめを突き付ける

戦争は 大地や生き物を打ちのめす  
戦争は 兵器開発の実験場となる  
戦争は 遺体を物体にしてしまう  
戦争は いったん始まると終わらない

独りの頭の中から始まった戦争  
どこからみても愚の骨頂

# グループ共有

- ・ブレイクアウトルームでは、参加者4-5名で1グループとなり、自己紹介や活動の共有などを行った。グループで話し合われたトピックは概ね以下の通り。
- ・佐賀県からの参加者があり、佐賀でいち早く避難民を受け入れた事例を紹介していただいた。以下、参考URL  
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00385108/index.html>  
<https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/activity/76503>
- ・日本財団の生活支援金について新規来日者が対象にならないこと、就労している方でも収入が10万円に満たないなど生活資金面での不安が話された。
- ・名古屋市外在住の避難者が友人がほしいという場合に、JUCAがつながりを作ってサポートしている事例の紹介、一人ひとりに応じた支援の大切さ。
- ・中長期的に避難者が直面する課題として、日本語で表現できない避難者がどう自分を表現したり心安らぐ場を作るか。刺繍や料理が得意な方が多いので、場作りや交流会を考えている。
- ・1年経っても戦争が終わらないという悲惨な状況。日本財団が中長期的な支援を始めたという話があり、自治体担当者として改めて検討しなければならないと感じた。
- ・関心の薄れと支援の継続をどうするか。報道関係では、若い記者も巻き込みながら報道を続けて行く必要性。
- ・ウクライナの教育は、芸術に力を入れていることもあり、ダンスやバレエなど得意な方が多い。刺繍や絵の得意な方などは物品販売なども可能。社協で連続企画などの形で、日本人との交流の機会も作りながら避難者の生きがいにも繋がるようなことができないか。
- ・個人の方より、支援したいが実現に至らずもどかしい思い。ネットワークとして支援方法の発信をしていくことも大事。
- ・在留資格更新のサポートが今後必要になる。サポートを必要とする方がいた場合、ぜひネットワークのことを案内してほしい。



# ウクライナ避難者支援のための寄付にご協力をお願いします

郵便振替00810-7-215694 口座名義：レスキューストックヤード

（ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込み）

ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）・〇八九（ゼロハチキュウ）店（店番：089）

当座 0215694 口座名義：レスキューストックヤード

※領収書は認定NPO法人レスキューストックヤードからの発行となります。